

年前大阪の某所でインドボダイジュと称するものを買ったのであるが、葉が一枚もなく甚だところもとないものではあつたが、温室に入れて現在に至る間、葉尖の長い葉をつけているのであるいはいと思うのであるがもう一つはつきりせぬ処もあるので機会があれば御教示願いたく思っている。また別の温室つまり第二温室ではもっぱらサボテン類の育成を行っている。先年瀬川弥太郎氏に本学に径 30cm 内外の金鯢があると申したところ、古曽部にある品種と共に40年程以前に我国に輸入されたものの一つで、当時入って来たのは非常に僅かなものであるから本物であれば相当なものだと教えていただいたが、未だお目にかける機会もなく楽しみを保留している。

以上昔の隆盛をしのび、熱帯植物の育成に努力し、再びキナ樹に花を咲かせたいと熱望する一方、一般薬用植物の蒐集栽培と研究用圃場の拡張によって各植物の成分の時季的变化に関する研究をも進めたいとも思い、さらに高山植物等の北方系植物の見本園をもつくりたい等なかなか夢は多いのではあるが、とすると雑草の威力に圧倒されそうな現在、あれを思いこれを使う時、前途益々多難なるものがあるが、今後は諸先生、諸先輩、同学諸氏の御鞭達と御教示を得て大阪薬科大学附属植物園が充分学界に貢献できるような立派なものになるように努力するものである。

(太 田 長 世)

大 阪 大 学 薬 学 部 附 属 薬 用 植 物 園

大阪大学薬学部は旧大阪薬学専門学校の国立移管によって建物、施設と共に昭和24年(1949)5月以来発足し、附属薬学専門部、医学部薬学科を経て現在に到ったのであるが、合併当時は敗戦後の混乱期の余波が鎮らない状況であって樹木園を除いては廃園同様の荒廃状態であったが昭和32年(1957)秋以来、薬草園に年5万円の予算を得て漸次その復旧に努力して来た。

去年末ようやく校門の北側の標本園の整備がほぼ完了し、各方面からの種苗の購入、寄贈等の援助を得て昨今ようやくどうにか薬草園と称してもよいかといった程度になったがその整備は今後の努力にまたねばならぬ状態である。総面積 2200余坪であり、小高くなつた丘陵地は主として樹木標本園としてニッケイ、ヤブニッケイ、シロダモ、ヤマコウバシ、クロモジ、アブラチャン、カナクギノキ等のクス科植物を中心に *Magnolia*, *Tilia*, *Rhus*, *Acer*, *Camellia*, *Viburnum*, *Weigela*, *Styrax*, *Ilex*, *Celastrus*, *Prunus*, *Betula*, *Salix*, *Quercus* 等の樹種を蒐め、珍らしいものには伊勢神宮の外苑に見られるトキワマンサク *Loropetalum chinense* Oliv. がある。新しく、トチュウ等の中国産の植物も植生しているが拡充は今後のことである。樹木標本園の坪数 1600坪 約150種を見本的に栽培しているにすぎない。

学生の教育と実習に供するための標本園は 560坪で、この標本園の薬用植物の栽培とその保管が目下重要な仕事となっているが延人員 120人の人夫を使って整備し、現在約 500種の文献既知の薬用植物を試作している。未整理ではあるが現在の栽培植物を大別すると約 760種に達している。

分 類 別	科	属	種 ~ 変種
羊 歯 植 物	7	22	30
裸 子 植 物	9	20	30
単 子 葉 植 物	20	95	150
双 子 葉 植 物	120	331	550
計	156	468	760

別に育苗区があって約80坪の露地に各種の樹木の稚苗や多年生草本植物の苗を試作している。この栽培区には近郊の山野を採集したものを集め将来の樹木園の充実を期したいという考えである。

半壊の温室はガラスは破れ、ビニル幕で代用しているが数多くの熱帯、亜熱帯植物の苗を栽培している。

最近の新薬界で雄飛した *Rauwolfia* の種類も *R. canescens*, *R. verticillata* 等ばちばち蒐集し、やがて将来の温室の新設をまって少しは見られるようにして見たいと思っているが、今の処は花卉植物と若干の暖地性植物が主となっている。将来、羊歯植物園も造って見たい。

其他の試作植物は生薬教室での研究テーマになっている関係上、邦産 *Aconitum* 属植物を蒐集しているが、時々激しい病害のために全滅に瀕している。それでも生薬として供用される *Aconitum carmichaeli*, *A. subeuneatum*,

A. grossedentatum, *A. sacchalinense*, *A. yesoenense* 等は健在である。*Aconitum* 属植物は別に栃木県の那須野の山県農場を借用して現在 約600坪に *A. carmichaeli*, *A. subeuneatum* を試験栽培している。これは専ら附子の生産試験用である。



樹木園の遠景と本館の一部
左はクスの老樹、右はユーカリの大樹



薬用植物 標本園の一部

将来、有用な薬用植物の試験栽培と成分定量を行いたいけれども今の予算では画餅にすぎない。しかし、かつての廃園に瀕したものをやっと形ばかりの復活の域に達したということで満足する他はないのが現況なのである。

別に本年度より 180万円の予算を得て、生薬標本庫の整備に当たることになった。道修町という日本最大の生薬市場を地元にもつ国立大学としてはこの方面に出来る限り完全な生薬標本を揃えておきたいとは年来の願望であったが漸くその第一歩を踏み出すことになったわけである。せめてパリー大学の標本庫の $\frac{1}{10}$ 程度になるまで。

(高橋真太郎・山中雅也)

— 雑 録 —

関 西 部 会 記 事

昭和34年10月30日午後6時から京都市中京区河原町蛸薬師「まんだ」において昭和34年度生薬学会京都大会の会計報告を行い引続いて35年度名古屋大会の打合せ、各役員の管掌区分の再確認等について協議した。

出席者 木村、嶋田、木島、渡辺、高橋(真)、稲垣、橋本、沢田、岩佐、杉山、永井、小塚、安藤、長倉の諸氏

昭和35年5月13日 午後4時から京都大学木村教授室において生薬学雑誌投稿規定の改正を協議した。

出席者、木村、嶋田、木島、渡辺、永井、長倉の諸氏

昭和35年6月23日 午後6時から京都大学楽友会館において生薬学雑誌投稿規定の改正案(関東側より送付されたもの)について審議し、雑誌第14巻第1号の収載原稿について協議した。

出席者 木村、嶋田、木島、渡辺、橋本、秦、永井の諸氏。

○関西部会会員各位殿

普通会費、特別会費の送付先を変更致しましたから、昭和35年度分会費からは下記え送付願います。

京 都 市 東 山 区 山 科 御 陵 中 内 町

京 都 薬 科 大 学 内

日 本 生 薬 学 会 関 西 部 会

振 替 京 都 1 9 7 9 番